

綾部商工会議所における品質管理(QC)検定試験 普及活動のご紹介

綾部商工会議所

総務課 西山 美穂

1. 当所紹介

【名 称】綾部商工会議所

【所在地】京都府綾部市西町1丁目50番地の1 I・Tビル4階

【概 要】

商工会議所は、明治11年(1878年)に商法会議所として発足しました。現在は、全国に514(平成22年11月現在)の会議所があり、その中で綾部商工会議所は昭和25年(1950年)12月6日全国で290番目の会議所として誕生しました。

商工会議所は、(1)地域性—地域を基盤としている、(2)総合性—会員はあらゆる業種・業態の商工業者から構成される、(3)公共性—公益法人として組織や活動などの面で強い公共性を持っている、(4)国際性—世界各国に商工会議所が組織されている、という4つの大きな特徴を持っており、全国で129万事業所(平成23年3月現在)が加入しています。

商工会議所は、地域の商工業者の世論を代表して、商工業の振興に力を注ぎ、地域経済、国内経済の発展に寄与する総合経済団体であり、活動は、「非営利性」「公益性」「普遍性」を原則とし、地区内商工業の総合的な発展を目指すことによって、ひいては社会一般福祉に貢献する為、未来に向かってよりよい地域経済の活性に取り組んでいます。

【当所写真】



【URL】 <http://ayabe-cci.jp/>

2. 取り組みの経緯

平成22年度に全国中小企業団体中央会からの補助金を活用し、ものづくり企業に向けた人材育成の講座を開講しました。その中で、会員事業所からQC関係の講座を開いて欲しいとの要望があり、QC検定3級対策講座を開講しました。そして受講者から、せっかく講座を受講するなら試験を受けたいが、都市部の受験会場だと行くだけで大変という声を多く聞き、当地綾部で実施ができないかと検討しました。QC検定センターに問い合わせましたが、地方での実施には受験者を100名以上集めなければできませんとの返答を受けました。そこで、綾部商工会議所では、会員事業所の要望に応えるべく、また地域貢献のために、なんとか実施できないかと近隣の学校や製造関係の事業所などに聞きとりしたところ、受験者が集まる見込みができ、綾部会場団体受験の検定を開催できることとなりました。

3. 取り組みの具体的な活動

当初は、第1回目を平成23年3月施行予定でしたが、東日本大震災の影響で中止となり、平成23年9月が第1回目の実施となりました。

第1回目にもかかわらず、3級だけで申込者が100名を超えました。100人規模の検定試験を綾部で実施するのは初めてであり、わからないことも多く思考錯誤しておりました。綾部市内には100名規模で試験会場として使用できる施設が少ないこともあり、第1回目の試験は、綾部商工会議所の会員事業所でもある日東精工株式会社様の全面的なご協力を得て、日東精工株式会社本社の食堂をお貸しいただき、当検定事業を実施することができました。

第1回目実施予定だった試験が中止になり、次の試験日まで半年空いてしまったため、受験者からの直前講座を開いて欲しいという要望があり、京都職業能力開発短期大学校に協力を得て、綾部商工会議所共催で、無料の直前講座を3回開催しました。

その後の具体的な実施方法としては、開催が決定した時点で、以前から受験いただいている事業所様に開催案内を郵送し、会議所の会報誌にも開催案内を掲載して、PRを行っています。

また、講座に関しては、平成24年9月の試験に向けての講座を京都府中小企業技術支援センターで実施されることになったので、受験申し込みいただいた皆様に案内しました。

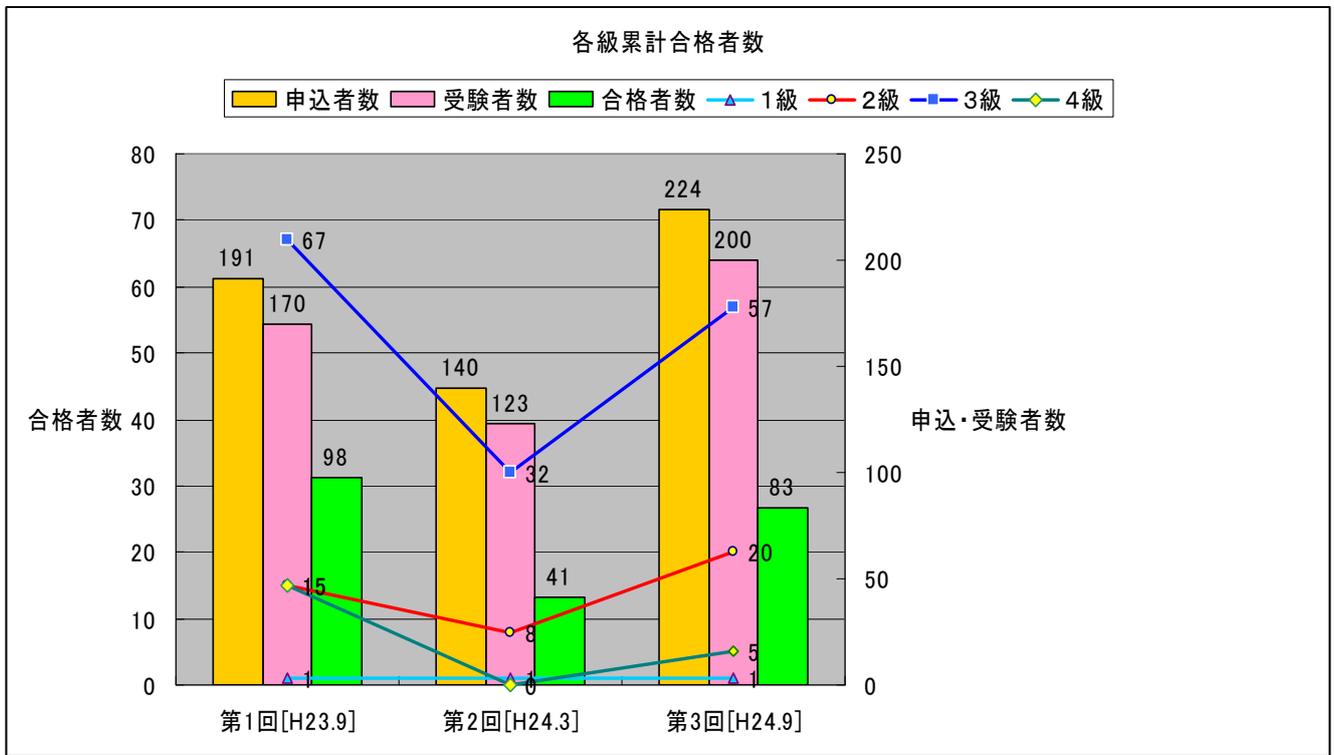
4. QC検定受験者の状況・実績

事業所単位でまとめて受験いただいているところが、約15事業所あり、その内、綾部商工会議所の会員事業所が約半分で、残りは綾部以外の事業所や工業高等学校となっています。

受験者数に関しては、これまで3回の開催ですが、9月の試験は受験者が多いのですが、3月になると9月に比べ3割弱減っています。まだ3回の開催なので減少理由はわかりませんが、次回以降も減るようであれば、減少原因を追求しなければならないと思います。

しかし、第3回目の試験では申込者数200名を超え、当初予定していた会場では入りきれない人数となり、京都府の施設に協力を得て、実施することができました。

以下のグラフはこれまでの申込者、受験者、合格者数をまとめたものです。



[平成24年3月 試験の様子]



[平成24年9月 試験の様子]



5. 地域学校の声（京都府立工業高等学校 宮部和真教諭）

私がQC検定の担当になった平成22年9月には、受検地の京都市内まで往復約6時間と旅費4000円が必要であり、受検料とあわせると高校生にとっては時間的にも経済的にもかなりの負担でした。この負担を少しでも軽減し、QC検定の受検を身近なものにするために、この頃から綾部商工会議所様への地元開催を相談させていただきました。地元会員企業様とも慎重に検討してくださった結果、平成23年3月から地元開催が企画されました。残念ながら東日本大震災による検定中止となりましたが、次の9月には初めて地元開催が実現し、本校の生徒も3級と4級を地元で受検することができました。

それ以来継続して受検させていただいており、学校内でのQC検定の認知度も向上していると感じています。地方における受検希望者の意向を地方の企業並びに団体の力を結集させることで実現させている現状を誇りに感じ、これからも地元開催に協力していくつもりです。

6. 地域企業の声（オムロン株式会社）

6.1 オムロン株式会社 綾部事業所について

1933年に「立石電機製作所」として創業したオムロングループは、技術革新を繰り返し、オートメーションによって様々な産業の生産性向上に貢献し、社会に潜在する様々な“ソーシャルニーズ”を捉えた事業化を推進することで成長してきました。「センシング&コントロール」技術をコアに、自動化による生産性向上や人と機械のよりよい関係づくり、そして、より安全で快適な社会づくりに取り組み、制御機器事業・電子部品事業・車載事業・

社会システム事業・ヘルスケア事業などを展開しています。

当社綾部事業所は、制御機器事業を担うインダストリアルオートメーションカンパニーに属し、工場自動化用のセンサを開発および生産しています。超小型のセンサから大型の検査装置まで生産品種は約 2 万 8 千品種（2011 年実績）に及び、多品種少量生産に対応しています。



オムロン株式会社 綾部事業所

6.2 品質管理検定（QC検定）への取り組み

オムロングループには「われわれの働きでわれわれの生活を向上しよりよい社会をつくりましょう」という、半世紀にわたり継承してきた社憲があります。この社憲の精神を端的に表したものが、企業理念の中核となる基本理念「企業は社会の公器である」であり、「品質第一」を基本としてよりよい製品・サービスを提供し、顧客満足を最大化することを行動指針としています。

この行動指針の下、当社では品質管理に関する知識が体系的に整理され、能力レベルに応じたチャレンジが可能なQC検定を、資格奨励制度や専門知識レベルの評価などへ積極的に活用しています。また、QC検定に協賛企業としても参画しています。

綾部事業所においては、独自の取り組みとしてQC検定をテーマとした勉強会を2008年より実施しています。この勉強会は、小集団活動、社内研修とは別に参加者の相互研鑽の場と位置付けて、QC検定受験者が試験結果を持ち寄り、わからないところを教え合うことからスタートしました。現在では、月1回程度の頻度で継続的に実施しています。

綾部事業所内でのQC検定申込者は、平均すると1回あたり30人程度で地域受験は実施できませんでしたが、綾部商工会議所様が2011年より開始された地域受験に参加できるようになったことで、QC検定が一層身近になり、社員の啓発活動にも効果がありました。また、学生のみなさんが多く参加されていることも頼もしく感じています。

今後も当社ではQC検定を活用することで、社員一人ひとりのモチベーション、品質意識向上につなげ、課題形成力、解決力を伴った自律人財の形成を目指していきます。

7. QC検定に期待すること

通常、QC検定センターが指定する都市部の試験会場に足を運ばねばならず、資格取得を推進する地方の事業所にとってはなかなか取り組みにくいという声が多かったことから、当会議所が取りまとめを行い、延べ100名を超える受験者と試験会場の手配という条件をクリアしたことによって、綾部会場での試験を実現することができました。

地方での受験は、一事業者では条件をクリアするのが難しいことではありますが、会員事

業所をはじめ大勢の皆様を受験いただき、団体受験として試験の施行に至ったことはとても有意義でありました。

また、今後も続けて欲しいという声を多くいただいております。当会議所としても、継続して実施取り組みをしたいと考えています。ただ、9月と3月の試験では受験者数に差があるため、年1回の開催にするべきか、迷うところです。受験者の立場としては、合格できなかった時、もう1度チャレンジしようと思ったら、また1年先まで待たなければならぬとなると、モチベーションも下がってくるのではないかと思います。そこで、今後も毎回開催できるよう、100名に達していなくても100名近くの人数が集まれば実施できるようにしていただければと思います。

当所としましても、良き見本となり、まだ地方での実施をしていないところにも広まって、QC検定がさらに多くの方に受験していただけて、それを多くの企業で活用することにより、各企業の品質管理の向上につながることを願っています。

社会に貢献できる人材を育成するという意味でも大変良い検定試験だと考えます。商工会議所としては、常に事業所の要望に応え、改善を図りつつ、さらなる受験者の拡大につながることを望んでおります。

以上